

令和7年度（2025年度）公共事業再評価調書

（様式3）

【大規模増額等地區】

基準年月日 令和7年8月1日

調査番号	07-13	所管部	水産林務部	作成責任者 担当係	林務局森林整備課路網整備担当課長 土井 和行 森林整備係（内）28-606						
Ⅰ 基本事項（基準日時点）											
事業種別	林道整備事業費										
地区名	ひくらかわし 松倉川支	市町村名	福島町	総事業費	1,350 百万円						
負担割合	国 50.0% 675 百万円	道 50.0% 675 百万円	市町村	— 百万円	その他	— 百万円					
事業目的・目標	●森林整備に直結する林内路網を形成する上で、恒久的施設として整備すべき林道を開設 ●本林道の森林利用区域面積は739haで、森林の保全に伴う水源涵養機能の維持向上や土砂流出防止機能の発揮にも重要な林道を開設 【アウトカム】 等 ●森林利用区域における森林整備面積を林道整備後も着実に増加させる ●林道整備前 27ha → 林道整備後 399ha										
事業概要	本路線は、福島県松倉地区の道有林内の林道間を結び、車道幅員3.0m、全幅員4.0m、事業計画延長5,878mの路線であり、土工・路盤工・擁壁工・排水施設工・法面保護工等を中心とした開設（新設）を行うもので、この地域の森林整備を実施する上で重要な路線である。	工事費内訳	林道開設事業 W=3.0m（4.0m）L=5,878m 林道開設工事 L=5,878m 測量設計費 1式	(百万円) 前回評価 666 84	(百万円) 今回評価 1,209 141	(百万円) 増減額 543 57					
			計	750	1,350	600					
総合計画での位置付け	総合計画の体系	基本方向 潜在力発揮による成長	政策の柱 （3）ゼロカーボン 目標：グリーン成長で環境と経済・社会が好循環する北海道	政策の方向性 林業・木材産業の健全な発展と山村地域の活性化	施策名 豊かな森づくりの推進						
特定分野別計画等での位置づけ	施策目標・方針	【計画名：北海道森林づくり基本計画 P31】 （安定的な原木供給と効率的な木材生産） 効率的な森林整備や木材生産を進めるため、傾斜や土壌、気候などの自然条件や集落からの距離などの社会的条件が恵まれている人工林を中心に、路網を重点的に整備します。									
	関連する指標	森林所有者等が効率的な森林施業を行うための路網整備水準 令和2年度(2020年度)：63.7m/ha ⇒ 令和13年度(2031年度)：68.0m/ha									
Ⅱ 公共事業評価経過											
事業経過	事業採択	着手	評価年度	完了予定	経過年数 5	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費(b)	進捗率(b)/(a)
	事前評価又は当初	R2(2020)	R2(2020)	R11(2029)			750	375			
	前回再評価										
	今回評価	R2(2020)	R2(2020)	R7(2025) R14(2032)			1,350	675	145	598	44%
変更理由・内容(概要)		(1) 資材及び労務単価上昇による増額 (2) 残土運搬先変更に伴う運搬費の増額 (3) 擁壁工の基礎構造変更に伴う増額 (4) 法面保護工の施工工法変更による増額 (5) 残事業の施工期間を精査したことによる事業期間の延伸									
Ⅲ 事業採択前の状況											
1. 事業採択に至る経過と背景		●本路線利用区域は基幹となる路網が未整備のため、適切な森林施業が困難な状況にあり、森林整備が立ち後れている。 ●本地区の人工林は伐期を迎えた林分の割合が4割であり、主伐及び間伐が計画されている。									
2. 事業検討の経緯（住民ニーズの把握等）		●R元年(2019年) 道有林内の森林施業実施のため事業を計画 ●R2年(2020年) 国からの事業採択 ●R2年(2020年) 全体計画調査（アセスメント等）									
3. 事業効果を及ぼす地域・対象		●本路線利用区域内の道有林 ●利用区域内の森林が持つ水源涵養・国土保全・土砂流出防止などの公益的な機能の発揮 ●森林利用区域面積739ha									
4. 関連する事業	事業名	事業主体	事業期間	事業費(百万円)	事業内容						
	森林環境保全整備事業	北海道	R2～R6	37	森林施業（間伐・造林・保育）						

Ⅳ 事業の実施状況																		
1.進捗状況	(1)事業実績及び今後の計画																	
	施工(工種)区分		工事内容		2	3	~	7	8	9	10	11	12	13	14	進捗状況	事業費(百万円)	
	林道開設工事		W=3.0m L=5,878m				L=1,148m					L=4,730m				44%	1209	
	測量設計費		全体計画・測量設計・施工管理				L=2,400m					L=3,478m				49%	141	
																	0	
																	0	
																	0	
																	0	
																		0
	(2)進捗状況																	
●事業費の増額により事業期間の精査を行った結果、事業期間が延伸となったが、今後の実施に当たって特に大きな支障となるものはない。																		
b		a:概ね予定どおり実施している。 b:事業計画・期間等を変更し実施する。 c:問題が生じ、実施に支障をきたしている。																
2.事業効果	経済効果の内訳(百万円)				費用の内訳(百万円)				備考									
	項目		R7現在		項目		R7現在		●「林野公共事業における事業評価マニュアル」(林野庁 令和7年(2025年)4月)に基づき算出 ●効果及び費用は令和7年(2025年)に現在価値化し、「整備期間+完了後40年間」で算出 ●費用は、現在価値化及び40年間の維持管理費の計上により総事業費と異なる									
	木材生産経費縮減便益		5		事業費		1202											
	木材利用増進便益		1		維持管理費		211											
	木材生産確保・増進便益		136															
	造林作業経費縮減便益		1															
	森林整備促進便益		1527															
	合計(B)		1,670		合計(C)		1,413											
	B/C (R7現在)		B-C		前回算定年度: R元年度(2019年度)【事業着手】													
			-		前回算定時B/C: 1.24(合計(B)856百万円、合計(C)689百万円)													
		経済的内部収益率		変更理由 ・事業費の増額に伴う費用の増加及び事業期間の増。 ・森林施業計画面積増に伴う便益費用の増。														
1.18		-																
3.コスト縮減などの取組	取組の項目		取組内容												縮減額(百万円)			
	計画手法の最適化		●路線全体計画調査で通過ルートと比較検討を行い、構造物施工区間の短縮により事業コストを抑制。												24			
Ⅴ 評価																		
1.必要性	●今後の開設区間においても森林整備を計画しており、本事業による林道開設の必要性に変化はなく事業継続は必要である。																	
	a		a:事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。 b:着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c:着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。															
2.事業を推進する上での課題	(1)環境上の配慮及び課題																	
	●工事区間における希少動植物については、現地調査及び地元有識者への聞き取り等を行った中で確認されていない。 ●土工のバランスを考慮し、極力地形の改変を抑える線形とするとともに、法面の早期緑化により降雨時・融雪時の土砂災害防止に努める。																	
	(2)事業推進に対する地域の動向・意向																	
	●森林施業の促進のため早期完成の要望がある。																	
3.事業達成の見込み	(3)その他の課題																	
	●特になし																	
	事業を推進する上で特に問題等はなく、引き続きコスト縮減を図ることで、事業期間内での完了が可能である。																	
a		a:現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b:課題はあるものの達成は可能である。 c:大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。																
4.対処方針	森林整備を実施する上で、必要な路網整備の基幹となる本林道の必要性に変化はなく、事業達成は十分見込まれることから、早期完成を目指し事業を継続する。																	
	a		a:継続 b:終了 c:休止 d:中止															
	事業期間変更の有無		有		事業内容変更の有無		無		総事業費変更の有無		有							

VI 備 考

1. 評価履歴	【評価結果】 事前評価： 該当なし 再評価： 該当なし
	【特記事項】
2. その他の取組事項	

補足資料

VII 事業計画変更

事業経過								事業費			
	再評価	事業採択	着手	評価年度	変更年度	完了予定		総事業費 (a)	当該年度 事業費	累計事業 費 (b)	進捗率 (b)/(a)
事前評価 又は当初		R2 (2020)	R2 (2020)			R11 (2029)	経 過 年 数	750			
変更①	1 回目			R7 (2025)	R7 (2025)	R14 (2032)		1,350	145	498	44
変更②											
変更③											
変更④											
変更⑤											
変更⑥											
変更⑦											
変更⑧											
変更⑨											
変更⑩											
変更理由・内容							5				
変更①：(1) 資材及び労務単価上昇による増額 (2) 残土運搬先変更に伴う運搬費の増額 (3) 擁壁工の基礎構造変更に伴う増額 (4) 法面保護工の施工工法変更による増額 (5) 残事業の施工期間を精査したことによる事業期間の延伸											

林業生産基盤道松倉川支線開設事業

- ・延長 : 5,878m

事業目的

- ・本林道の森林利用区域面積は739haで、森林の保全に伴う水源涵養機能の維持向上や土砂流出防止機能の発揮にも重要な林道を開設する。

事業箇所

